

# 2012年3月期 第2四半期連結決算ハイライト

阪和興業株式会社  
(単位: 億円 億円未満切捨て)

## 2012年3月期 第2四半期決算の概要

・本年度第2四半期決算は、鉄鋼事業や石油・化成品事業が堅調に推移したことや、連結子会社が増加したことなどにより、売上高は前年同期比18%増の7,626億円となりました。一方、四半期純利益は投資有価証券評価損の特別損失への計上などにより、3%減の38億円となりました。

・中間配当は6円とし、期末配当見込み6円と合わせて、年間配当は12円を予定しております。

経営成績	当第2四半期 (累計)	前第2四半期 (累計)	前年同期比		主な要因
			増減	増減率	
売上高	7,626	6,471	1,155	18%	<p>(売上高) 東日本大震災直後の経済活動の停滞から回復し、鉄鋼事業や石油・化成品事業が堅調に推移、連結子会社の増加もあり、前年同期比18%の増加となった。</p> <p>(販管費) 人件費の増加は約8億円、連結子会社の増加や社員数増加による人件費の増加が主な要因。大きな貸倒の発生はない。</p> <p>(営業外損益) 為替差益の減少などにより、営業外収入は20%の減少。営業外費用は支払利息の増加により、5%の増加となった。</p> <p>(特別損益) 株式市況の下落により、投資有価証券評価損約33億円を計上した。</p>
売上総利益	258	215	43	20%	
販管費	157	147	10	7%	
営業利益	101	67	34	50%	
営業外収益	21	26	△5	△20%	
営業外費用	21	20	1	5%	
経常利益	101	73	28	37%	
特別利益	—	—	—	—	
特別損失	33	5	28	486%	
税引前当期純利益	68	67	1	0%	
法人税等	28	28	0	1%	
少数株主損益	1	0	1	216%	
当期純利益	38	39	△1	△3%	
E P S	18.44円	18.96円	△0.52円	△3%	
当期包括利益	35	8	27	329%	

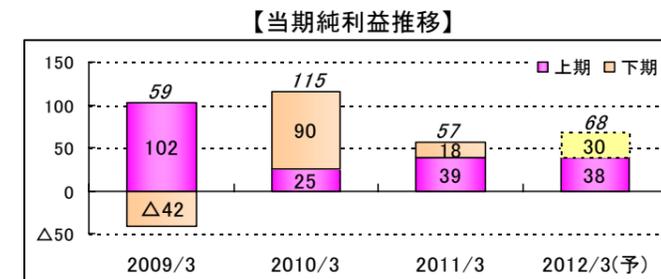
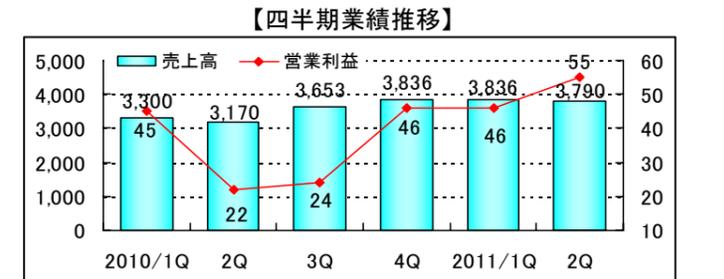
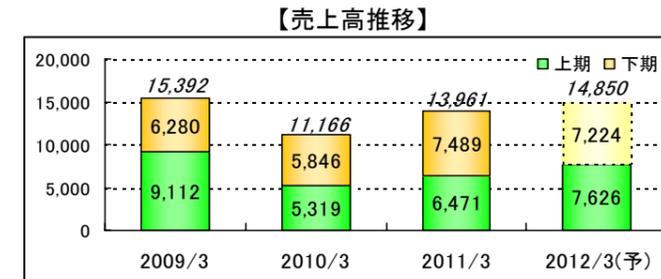
セグメントの状況	売上高			セグメント利益(経常利益)			主な要因
	当第2四半期	前第2四半期	増減率	当第2四半期	前第2四半期	増減率	
鉄鋼	3,666	3,368	9%	43	45	△4%	<p>(鉄鋼) 製造業向け需要は回復し、建築需要の大きな落ち込みもなかったが、原料高の鋼材価格への転嫁は中国など海外市況の変動により困難に。</p> <p>(金属原料) 市況は軟調ながらも高いレンジで推移。ステンレス向けは生産調整が続くも、高炉向け需要は回復。</p> <p>(非鉄金属) 市況は乱高下するも高水準にあり、需要は自動車向けなどが急回復するなど概ね堅調に推移。</p> <p>(食品) 国内需要は頭打ちだが、海外市況の強さや国内漁獲量の減少などから市況は堅調に推移。</p> <p>(石油・化成品) 震災後の混乱が落ち着き、製品需要は低調も、原発代替の電力向け需要が貢献。</p>
金属原料	683	599	14%	23	17	29%	
非鉄金属	335	272	23%	15	7	125%	
食品	462	408	13%	9	10	△7%	
石油・化成品	2,033	1,494	36%	13	7	87%	
報告セグメント計	7,180	6,143	17%	105	87	20%	
その他	770	607	27%	14	4	228%	
合計	7,951	6,751	18%	119	92	30%	
調整額	△324	△279	△16%	△18	△18	1%	
PL計上額	7,626	6,471	18%	101	73	37%	

**トピックス**

- ・ 7月 鋼材加工業の三重鋼業(株)を子会社化
- ・ 8月 大阪南港にステンレススクラップなどの集荷業務を行う阪和メタルズ(株)を設立
- ・ 9月 静岡営業所を開設

財政状態	当第2四半期末	前期末	前期比		主な要因
			増減	増減率	
総資産	5,516	5,327	189	4%	<p>(総資産) 売上高の増加に伴う売上債権や販売在庫の増加などにより、前期末比4%の増加となった。 たな卸資産 1,090億円(前期末比 +8%)</p>
(流動資産)	4,418	4,232	186	4%	
(固定資産)	1,098	1,095	3	0%	
負債	4,371	4,223	148	4%	<p>(負債) 売上高の増加に伴う仕入債務の増加や社債発行などにより、前期比4%の増加。有利子負債は微増となったが、ネットDERは2.0倍を維持した。</p>
(グロス有利子負債)	2,402	2,352	50	2%	
(ネット有利子負債)	2,211	2,144	67	3%	
Net DER	2.0倍	2.0倍	0.0倍	0%	
純資産	1,145	1,104	41	4%	<p>(純資産) 四半期純利益の積み上がりや少数株主持分の増加などにより、前期比4%増加した。 この結果、自己資本比率は20.3%となった。</p>
(株主資本)	1,146	1,118	28	3%	
(その他の包括利益累計額)	△24	△20	△4	19%	
(少数株主持分)	23	6	17	247%	
B P S	541.27円	529.65円	11.62円	2%	
自己資本	1,121	1,097	24	2%	
自己資本比率	20.3%	20.6%	△0.3pt	—	

キャッシュ・フロー	当第2四半期 (累計)	前第2四半期 (累計)	前年同期比		主な要因
			増減	増減率	
営業活動によるCF	37	△305	342	—	<p>(営業CF) 事業収益が運転資金需要の増加を吸収し、+37億円</p> <p>(投資CF) 有形固定資産や投資有価証券の取得により、△61億円</p> <p>(財務CF) 短期借入金の返済などにより、△1億円</p>
投資活動によるCF	△61	△65	4	△6%	
財務活動によるCF	△1	249	△250	—	
現金及び現金同等物	189	118	71	60%	



通期の見通し	通期業績予想	前期実績	
		前期実績	対前期増減率
売上高	14,850	13,961	6%
営業利益	174	138	26%
経常利益	150	134	11%
当期純利益	68	57	17%

配当の状況	前期実績	当期実績	当期予想
期末	6.00円	—	6.00円
年間配当	12.00円	—	12.00円
配当性向	43%	—	37%